

講演会（第 63 回例会）

演題：映画館を愛して

実施期日：平成 30 年 3 月 29 日（木）

会場：アオッサ 706,707 号室

講師：司法書士、「みに・キネマ・福井」代表 高橋忠栄氏

参加者：76 名（内新会員 3 名）

ご本人の略歴。 昭和 12 年旧酒生村生まれ。地元の小・中学校を終えて乾徳高校、中央大学を卒業。昭和 45 年に司法書士事務所を開業して 48 年、「岩波映画を観る会」（現在は「みに・キネマ・福井」と改称）を立ち上げて 30 年に及ぶ。上映は 1 年間に 4 回、計 100 回を超え、観客は 27,000 人に及ぶ。福井県の「すいせん賞」、「野の花文化賞」、福井新聞の「文化賞」を受賞。現在はご家族 6 人が湊町にお住まい。

講演内容（A3 用紙 9 枚に上る膨大な資料が配布されたが、講演はシドニーに住まわれて 8 年になるという御令嬢が急遽帰省されたのを機に、御令嬢の編集によるパワーポイントを使用し、ご子息の援助のもとに進められた）

高橋氏は若いころ東京神保町にあるミニシアター「岩波ホール」で観た映画に感動を覚えていたという。理由は、その小さなホールで大きなスクリーンに映し出される迫力ある映像と音響、気の置けない映画愛好家（仲間）と一緒に観れるというのも一因だが、上映される映画が全て戦争を憎み平和を愛するテーマであり、自然環境を大事にするテーマであり、いろいろなハンディを持つ人が懸命に生きる姿であり、泣き笑いの人生であり、淡い恋物語など、世界平和を求め、人間の本来あるべき姿を描いている映画を精選しているからだという。以後テレビの普及により、またビデオでも手軽に鑑賞出来るようになった上に、映画そのものにも関心が薄れる傾向にあることを残念に思っていたという。

福井市内の映画館を借りて自主映画を上映しようと思いついた直接のきっかけは、自分たちも「忘れられない映画をもう一度福井で、しかも映画館で観たい」という願望を持ち、映画愛好家からも「こんな映画を観たいのだがやってくれないか」という要望もあったことは事実だが、岩波ホールで、当ホールの元支配人・故高野悦子さんの講演を聞き、「商業的に成功しなくても、世界の良い映画を日本に紹介したい」との考えに共感したからだという。結局仲間 4 人で立ち上げたのが「岩波映画を観る会」（今の「みに・キネマ・福井」）とのこと。以上のいきさつで映画を選ぶ基本は東京の「岩波ホール」で上映された作品からで、その第一作に「**薄墨の桜**」を上映した。その後「みに・キネマ・福井」の生みの親と言っても良い高野悦子さんからも認められるほど充実した会に育っていった。

「みに・キネマ・福井」結成後 30 年間に上映した百数本の映画のうち、数本の映画を DVD を交えて説明が続いた。

1998 年に第 38 回・10 周年記念第三弾として県立音楽堂「ハーモニーホール福井」で上映したのが、旧ソ連のチェルノブイリ原発事故で放射能に汚染された村で暮らす人々の姿を描いた「ナージャの村」である。この時は監督を務めた写真家の橋本成一さんが駆けつけてくれたが、高橋氏はもう少しチェルノブイリの事故を深く理解しておれば、東北地方での事故は違った形で対応できたかもしれない、そこで働く人の失職は別の次元で考えればよいのだからと思ったという。

当会が企画した映画ではないが、高峰秀子の死を悼んで福井市内で上映された坪井栄作・木下恵介監督の「二十四の瞳」も忘れられない。高峰秀子が演ずる小豆島を舞台にした教師と 12 人の教え子たちの交流を描いた映画だ。家が貧しく郷里の食堂に奉公し、修学旅行にも行けないマツちゃんと大石先生との会話、「万歳！」と言って送り出した教え子が白木の箱に入って帰ってくる不条理には胸を詰まらせた。中で頻繁に歌われる「仰げば尊し」「七つの子」には涙が流れたという。

日本政府の国策で 27 万人もの日本人が旧満州に入植させられ、以後対ソ連戦争に参戦し、敗戦となって 8 万数千人もの日本人が日本に帰れず命を失った。また、多くの中国生まれの日本人が残留孤児として中国に残された。中国で亡くなった日本人の墓を戦後、周恩来総理の指示で建立したのが「方正地区日本人公墓」である。「嗚呼 満蒙開拓団」は羽田澄子監督によってこの間の様子が映画化されたものである。

これらの映画の他、「忍ぶ川」「大丈夫」「ふたりの桃源郷」「ひめゆり」等、かつて多くの人が感動した映画が紹介された。

当会の運営にはかなりな費用がかかるが、立ち上げ当初から 30 年間どこからの補助も受けず、映画愛好家から頂く入場料と世話役が差し出すポケットマネーだけで「赤字はいつか黒字になる」と念じながら続けてきた。2016 年 11 月にはついに 100 回目を迎え、「沖縄うるいずの雨（戦後 70 年・沖縄は問いかける）」を上映した。この間事務的なこと（入場券の発送やアンケート結果のまとめ等）は高橋宅で行い、それが終わると秋田県出身の奥さんの手料理（きりたんぼ鍋、しょつつる鍋等）に疲れが癒されたとのこと。

最後に 4 月 12 日（木）にテアトルサンク 4 で上映予定の「標的の島・風かたか」をぜひ見てほしいとの案内があつて例会の講演は終了した。

以上 大野 記